

第1回 企業・アセットオーナーフォーラムの概要

1. 開催日時 2016（平成28）年9月1日（木）午後3時～5時

2. 参加企業

アサヒグループホールディングス株式会社、エーザイ株式会社（○）、オムロン株式会社（○）、JFEホールディングス株式会社、株式会社資生堂、TOTO株式会社、日産自動車株式会社（○）、日本電信電話株式会社（計8社、（○）は幹事会社）

3. 参加企業の主な発言

① 企業価値向上に向けた戦略

○投資家と企業は情報の非対称性を緩和することで、WIN-WINの価値創造が可能。

○投資家とのミーティングで、企業がどんな「思い」で経営しているかを訴えているが、多くの投資家は関心を示さない。長期的な視点で経営する会社を評価してほしい。

○中長期的な投資家に株を持ってもらうには、企業価値向上と連動した経営陣へのインセンティブ付与が必要、さらに経営陣・社員一丸となった経営理念・事業戦略の共有も必要。

② 企業が考える「対話が成り立つエンゲージメント」とは？

○企業側は投資家を選べないというのは事実だが、敢えて投資家を選ぶ努力をし、株価を意識した経営を前提におくと、情報開示が能動的となる。

○プレビュー取材が無くなったのは良いことだが、マスコミは未だに決算観測記事を書いており、それを「上回った、下回った」で投資家が一喜一憂する状況は残っており問題。

○対話を進めるうえで、統合報告などの開示資料の内容を事前に理解しておいてほしい。

○議決権行使においては、一定の基準だけを振りかざす投資家もあり、レベル差がある。

○今年1月から月次売上の公表はやめたが、アナリスト等から文句は一切出していない。

○運用会社のガバナンス担当者も日系の運用会社は形式的なアプローチで、日系と外資系とで質の違いは感じている。

○国内機関投資家を取り巻く環境には利益相反があり、親会社との取引の関連で議決権行使が歪められている。セルサイドはヘッジファンドが収益源で短期的な視点になりやすい。

○IRを積極的に行うことは、①資本コストを下げる効果、②ネガティブなイベントがあったときに、きちんとIRをやっている会社の株価は戻りが早いことを信じさせる効果がある。IRはコストセンターではない。

○セクターアナリストと議決権行使担当者が役割分担されており、議決権行使と投資がバラバラに行われている運用会社があるが、双方がコミュニケーションするほうが望ましい。

③ GPIF を含むアセットオーナーへの期待と要望

- 議決権行使などについてのGPIFの考えを「原則」というかたちで示す必要があると思う。
- 「原則」を示すことは明らかに必要だが、形式的な基準が独り歩きすると、開示資料だけで判断されてしまう。実質的なところを見に行ける余地がある方が良い。
- 企業は自ら必要と思うことをやり、それを理解してくれる投資家に対して、コーポレートガバナンス責任とフェアディスクロージャー責任を果たしていこうということになるのではないかと。そういった企業を応援しようとする機関投資家が増えてきて、そこにGPIFが資金配分するようになっていくことで、建設的なよい循環が生まれるのではないかと。

④ 議論のテーマや概要などの公開について

- 議事は非公開という話だったが、他の企業や投資家から是非内容を教えて欲しいという声が既に多数寄せられている。発言者が特定されないかたちで、議論のテーマや概要などを公開することを検討してはいかがか。(全参加企業が賛同し、概要を公開することとした。)

以上